

UNIVERSITY CONSORTIUM TOCHIGI NEWS LETTER



大学コンソーシアムとちぎ
発行 大学コンソーシアムとちぎ事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 (宇都宮大学内)
TEL.028-649-5016 FAX.028-649-5079
URL: <http://www.consortium-tochigi.jp/>

2007.11.28
Vol.2



国際医療福祉大学キャンパス

コンソーシアムという試み

国際医療福祉大学 学長 谷 修 一

「大学コンソーシアムとちぎ」は発足から3年を数える。栃木県は関東地方において、面積は6,408km²と最大であるのに対して人口は2,015千人と最も少なく、コンソーシアムを形成する大学・短期大学等の高等教育機関も18にとどまる。このことから、大学コンソーシアムの先進地域である京都や大阪のように大学・短期大学等が狭い範囲に集中し、学生・教職員が簡単に他の教育機関と往来できるような環境とは異なっている。

今年度は単位互換に関する包括協定を結ぶ等の制度整備を行ったが、前述のような地理的な制約から、実際に利用できる教育機関は限られてくるし、特定の教育・研究分野に特化した大学等が多いため、自らの専門以外の領域に興味関心を抱くところまで成熟していないのが現状ではないだろうか。

栃木県の大学コンソーシアムには、栃木県ならではの特色というものが必要になつてくると思われる。それは勢いプロジェクト型になるのではないか。

単位互換の科目でいえば、今年9月22日～24日に宇都宮大学と大学コンソーシアムとちぎが主催して実施した「国際キャリア合宿セミナー2007」である。夏期休業中の2泊3日の合宿形式であったため、県

内の宇都宮大学、白鷗大学、国際医療福祉大学（いずれも単位認定校）にとどまらず東京大学、岩手県立大学、北海道大学、山口大学、企業等からの参加者もあつて参加者は109名に上った。宇都宮大学の過去3か年のご努力の蓄積によるところが大であるが、県内各大学等の参加によつて二層の広がりと呼びたい。今後より多くの大学等の参加を望むとともに、これに続く企画が提案されることを願っている。

また、10月29日の理事会でも報告されたが、宇都宮共和国大学の須賀学長が会長に就任された「とちぎ元気な森づくり県民会議」に当会として協力してゆくことになった。各大学の専門領域に関わる事項のみならず、学生ボランティアの組織化等の取り組みが期待される。

コンソーシアムの今後の展開を考えたとき、平成20年度から文部科学省で年間50億円が予算化される「戦略的大学連携支援事業」は、地方の国公私立大学コンソーシアムの活性化に大きな呼び水になるのではないだろうか。県内教育研究環境のネットワーク構築をはじめ、実のある地域振興や知の拠点としての機能強化等に取り組んでゆくことが必要であると考えている。

大学コンソーシアムとちぎ連携講座

2007年、大学コンソーシアムとちぎ連携講座がスタートして2年目、5つのオリジナル授業科目が大学生、高校生及び社会人にも開設されました。今回は「異文化トレーニング」をクローズアップし、ご担当された金子先生、受講されたお二人に感想を聞いてみました。



2007年開講科目： 異文化トレーニング 科学的な見方考え方 宇宙の探求 知的財産権概論 石膏デッサン

クローズアップ

異文化トレーニング

『異文化トレーニング』
をご担当された金子正子
先生より授業の感想をい
ただきました。

「異文化トレーニング」とは、「個人が自分の文化の限界を越えて他の文化の人と円滑にコミュニケーションを行う能力を養うためのプログラム」と定義できる。そして、認知・感情・行動の3つのレベルでの変容を目標としている。この授業では、参加型学習を取り入れ、受講者が認知レベルのみならず、感情・行動レベルでの気づきと変容を体験できることを目指した。受講者（日本人学生35名、留学生8名、世代の異なる社会人7名）は、毎回くじを引いて席（グループ）を決めるので、様々な文化背景の人と出会い、意見交換し、活動することになる。授業では、異文化摩擦の対処法を理論的に学ぶとともに、実際に異文化摩擦やカ

ルチャージョックを疑似体験するゲームを行ったり、エピソードを取り上げたり、そこから学んだことや考えたことを分かち合った。授業自体が、異文化体験となり、異文化理解を促進する機会になったと考える。日本人学生は一般に控えめで自分から意見を述べるのは苦手だとされるが、留学生や社会人が積極的に意見を表明する姿に刺激を受け、徐々に活発に自分の考えを述べるようになった。クラス全体が回を追うごとに、初対面の人（異文化）との出会いを期待し、喜ぶ雰囲気になり、満ちてきた。「文化背景の異なる人たちが深く出会える場を授業レベルで提供したい」というのが私の一番の願いだった。そのことが、この授業を通して実現できたことを心からうれしく思っている。

宇都宮大学 国際学部2年生 渡邊 香さん

この授業で一番強く印象を受けたことは、参加者がほぼみんな積極的だということだ。それは外国人でも日本人でも同じだった。日本語で発表しなければならぬのに、臆することなく「自分の意見を聞いてほしい」と手を挙げる姿を見て、その場にいる全員が積極的に意見を述べようとする姿勢が当たり前で大切なんだと思った。また、直に外国の習慣や常識を聞いて、自分はまだこんなにも何も知らないんだと痛感した。私たちは普段、ある程度は文化が違う人たちに対して配慮を持っていると思う。外国人とは習慣も常識も異なるとわかっているが、だれしも、「いくら何でもこの辺は同じだろう」と考えているところがあると思う。そしてその部分が違ったときに、自分がいかに理解していなかったかを知るのだ。この授業の中で、私は何度もこのような体験をした。

社会人 福島 理佳さん

授業は毎回想像以上に面白く、この授業から学んだことはたくさんある。それらは書物を通して学ぶことは全く違うものだった。様々な学部学科の宇大生や留学生、経験や世代の異なる方々と意見交換をしたり共に体験しながら学び取った事柄は、なかなか得難い大切な物のように思える。「異文化トレーニング」という授業ではあったが、私にとっては以前から日常の中でわずかに抱くがそのうち消えてしまう自分自身や他者への違和感や、何かに触れた時に一瞬思い浮かぶが漠然とし過ぎていて忘れてしまう疑問点などが、学問として体系づけられて目の前に提示された気がした。そして授業の終了時にはそれらをはっきりと意識したり、自分自身に対する課題を立てることができた貴重な時間だった。率直な意見交換に応じてくれた方々、そして金子先生に感謝したい。

ご感想いただきありがとうございました。



宇都宮大学では、国際キャリア合宿セミナー2007を9月22日(土)から24日(月)まで、合宿により開催した。今回で4回目となる同セミナーは、昨年に引き続き、「国際舞台で活躍をめざす若者たちへ」をテーマに、大学コンソーシアムとちぎや、白鷗大学、国際医療福祉大学等の協力大学、また、国際協力機構・JICA地球ひろば、いづくら国際文化交流会等の後援、協力を得て実施された。実行委員会には、栃木県職員、白鷗大学教員、市民団体代表者、国際協力機構職員、宇都宮大学生も加わり、企画委員会、実行委員会の企画運営の下に、教職員、学生が一体となって開催した。

開講にあたり、菅野長右門宇都宮大学長から、「急速なグローバル化の進展により日本社会の国際化も急速に進行しているが、国際機関やNGOなどで働く日本人の数は、日本の国力に比して決して多くない。そうした状況下で、国際学部を有する宇都宮大学が、国際舞台で活躍する人材の養成に向

共催事業

宇都宮大学

“国際キャリア合宿セミナー2007”を開催

けて、国際キャリア教育を実践することの意義は大変大きい。地域の諸団体との協力のもとに企画し、栃木県内外の学生・青年・社会人を対象に本セミナーを開催することはきわめて有意義だ」とする旨の挨拶があった。

セミナーは2泊3日の合宿形式で行われ、講師には、国連職員や、日本ユネスコ協会連盟、国際NGO等、国際的諸活動の第一線で活躍している9名を迎え、講義及び分科会、パネルトーク、全体発表会などを実施した。

なお、国際キャリア合宿セミナーには、宇都宮大学のほか、白鷗大学、国際医療福祉大学、東京大学、岩手県立大学、北海道大学、山口大学などの県内外の大学及び企業等から109名の参加があった。特に、宇都宮大学、白鷗大学、国際医療福祉大学の学生には、単位認定を行っており、好評を得た。また、学生たちの中には、講義や演習終了後も講師たちと夜を徹して語り合う姿も見られ、充実した3日間を過ごせたとの多くの感想が聞かれた。



主催事業



4/16～7/30 連携講座オリジナル授業科目
宇都宮大学「異文化トレーニング」

2Pをご覧ください。



平成19年度 事業報告 4月～11月

大学コンソーシアムとちぎ

協力事業



7/21 宇都宮大学オープンキャンパス

主催事業



5/9 栃木県高等学校長と大学コンソーシアムとちぎ学長との懇談会



共催事業



6/13 地域別産学公連携懇談会
地と知を結ぶ「産学公連携」を求めて

共催事業



7/3 宇都宮共和国大学 シティライフ学シンポジウム
賑わいを呼ぶまちづくり ～都市の魅力と都市観光～

主催事業



10/29 大学コンソーシアムとちぎ学長懇談会及び栃木県知事との懇談会



共催事業



9/22～24 国際キャリア合宿セミナー

3Pをご覧ください。

共催事業



11/2 基調講演&パネルディスカッション 栃木県の産業融合化と産学公連携





大学コンソーシアムとちぎの ホームページが 公開されています。



大学コンソーシアムとちぎではホームページを公開しております。大学コンソーシアムについてはもちろん、学生のみならずには連携講座のシラバスが掲載されており、高校生や社会人の方も受講可能なオリジナル授業科目の申込みこちらから出来ます。

また、加盟する各大学の最新情報や、オープンキャンパス情報もチェックできます。

大学コンソーシアムとちぎ役員（平成19年6月27日現在）

理事長	菅野長右門	宇都宮大学長
副理事長	吉田 忠雄	足利工業大学長
副理事長	谷 修一	国際医療福祉大学長
副理事長	諸富 隆	作新学院大学長・作新学院大学女子短期大学部
理事	市川 秀夫	社団法人栃木県経済同友会代表幹事
理事	上野 憲示	文星芸術大学長
理事	上野 孝子	宇都宮文星短期大学長
理事	太田 周	放送大学栃木学習センター所長
理事	沖永 佳史	帝京大学長
理事	小林 茂雄	栃木県総合政策部長
理事	清水 敦彦	足利短期大学長
理事	須賀 英之	宇都宮共和大学長・宇都宮短期大学長
理事	高久 史麿	自治医科大学長
理事	田原 博人	前宇都宮大学長
理事	寺野 彰	獨協医科大学長
理事	中村 幸弘	國學院大學栃木短期大学長
理事	藤本 光宏	小山工業高等専門学校長
理事	森山 眞弓	白鷗大学長
理事	谷島 一嘉	佐野短期大学長
理事(事務局長)	山本 純雄	宇都宮大学副学長
監事	内野 直忠	前学校法人船田教育会監事
監事	関澤 繁	社団法人栃木県経済同友会専務理事

大学コンソーシアムとちぎ事務局（平成19年6月27日現在）

現在、宇都宮大学産学地域連携課が担当しております。

編集後記

2007年度度も後半に入りました栃木県の美しい秋の到来です。ニュースレターVol.2の発刊となりました。私、先日、事務局担当として「第4回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムー広島修道大学ー」に参加させていただきましたが、大学を使って地域を活性化しようとする行政の取り組みや、大学間の連携による教育、経営の改革を目の当たりにすると、我々の取り組みはほんの半歩のような気がしました。しかしながら、小さな流れがやがて大きくなることを今後期待し、何とか頑張っていきたいと思っております。

私は、これから大学側から見たコンソーシアムの利用として、特に注目していかなければならないのは、FDとSDの課題に集約されるのではないかと個人的には考えています。教員の教育力向上を目指すことはもちろん必要ですが、それと共に立命館大学など私学に見られる大学アドミニストレータの養成への取り組みは、これまでの高等教育機関の経営効率の面からも多くの国立大学が学ばなければならないことだと思っております。

少し話が変わりますが、前述のフォーラムの中で、経済財政改革の基本方針2007が閣議決定され、戦略的大学連携支援事業『国公立大学の連携による地方の大学教育の充実』について文部科学省のご担当の方から説明を受けました。これより先に教育再生会議（平成19年6月1日ー第二次報告ー）の中で、提言4【国公立大学の連携により、地方の大学教育を充実する】【国公立を通じた「大学地域コンソーシアム」や大学院の共同設置】が掲載されておりました。財政事情が厳しい日本の現状及び少子化進んだ今は、地域の教育力の向上のため高等教育機関同士が連携することが不可欠であることを示唆していますし、教育の地域間格差においても、行政が積極的に関わることで地域活性化の一つとして大学を利用することから始める時期に来ているのではないのでしょうか？

事務局担当 飯島

大学コンソーシアムとちぎ参加校 50音順

足 利 工 業 大 学 足 利 短 期 大 学 宇 都 宮 共 和 大 学 宇 都 宮 短 期 大 学 宇 都 宮 大 学 宇 都 宮 文 星 短 期 大 学
小 山 工 業 高 等 専 門 学 校 國 學 院 大 學 栃 木 短 期 大 学 国 際 医 療 福 祉 大 学 作 新 学 院 大 学 作 新 学 院 大 学 女 子 短 期 大 学 部 佐 野 短 期 大 学
自 治 医 科 大 学 帝 京 大 学 獨 協 医 科 大 学 白 鷗 大 学 文 星 芸 術 大 学 放 送 大 学 栃 木 学 習 セ ン タ ー